

前橋中心街に学習の場

来月 大学生が設計・運営、指導

前橋市中心街の弁天通りに7月1日、中高生向けの有料学習スペース「ベントンスターティープレイス」が誕生する。前橋工科大生が勉強に集中できる空間を設計して運営、群馬大医学部生

が個別指導するという学生主体のプロジェクトだ。中心街の空き家対策の環境でもあり、周辺で若い世代の移住や出店が相次ぐ中、相乗効果が期待される。

中高生向け、空き家活用



学習スペースを設置運営する広瀬さん(中央)ら
—前橋市千代田町

空き家問題を研究する前工大生4人が中心となり、空きビルを改装した「弁天シェアハウス」1階に学習スペースを設置する。1年ほど前からシェアハウス1階の用途を考えていたところ、中高生が公共施設で勉強する姿を見て、学習空間としての活用を発案したという。

運営する同大大学院修士

2年の広瀬朋也さん(23)は「中心街を学生たちの通学路ではなく、目的地にする仕掛けをつくれれば活性化につながるのではないか」と話す。広瀬さんから学生同士のつながりで協力を取り付けた群馬大医学部生12人が講師を担当する。室内を改装し、勉強に適した机や棚などを配置する予定だ。

高校生利用料が月2万1600円(土日コース)など学習塾並みの金額設定だが、運営を支援する前工大の堤洋樹准教授は「空き家を継続的に活用するには、付加価値の高いサービスを提供し、対価を得られる仕

組みが必要。ここを拠点に、空き家活用を波及させた」と話している。

1日まで40万円を目標準に、クラウドファンディングサイト「Ready for」(<https://readyfor.jp/projects/benten>)で支援者と利用者を募集している。問い合わせは広瀬さん(☎080-13233-0542)へ。